

Expansion on the move

飼料添加物製造

飼料添加物メチオニン（必須アミノ酸）の大手製造メーカー Novus社。

世界的に伸長する食糧需要を満たすために、長期にわたり年率5%程度の成長率が続きと期待されるメチオニン市場の需要に応えるべく製造能力の拡大を計画しています。

メチオニン生産量

2015年
32万トン



2020年

44万トン(計画)



ヘルスケア

インドの病院グループ買収などにより事業拡大するアジア・トルコ最大の民間病院グループIHH社を中核にヘルスケア事業を展開。

アジア・オセアニアをカバーする医薬情報サービス大手MIMSグループとアジア透析事業DaVita Care社への出資参画により病院周辺事業を拡大します(P.59参照)。

IHH Healthcare Bhd.公表の
全病床数

2015年
7,000床超



2016年
約10,000床

タンクターミナル

米国ヒューストンで長年取り組んできた化学品タンクターミナルITC社と、欧州主要港アントワープのITC Rubis社は、ともに需要伸長に応えるべく、拡張工事を進めています (P.64参照)。

化学品に加えて石油製品の需要増も取り込み、商品市況に左右されない安定的な事業拡大を見込みます。

ITC社／ITC Rubis社
合計タンク能力

2015年
210万m³

↓

2020年
340万m³(計画)



IPP

世界21ヵ国、70ヵ所で発電事業を展開。

建設中案件の完工による利益積み上げや、資産の組み替えによる、地域や電源タイプを分散した優良なポートフォリオの構築により、持続的成長を目指します (P.51参照)。

当社持分発電容量(ネット)

2015年
9.6GW

↓

2016年
11.1GW

Reinforcement on the move

鉄鉱石

長きにわたりパートナーと取り組んできた、豪州・ブラジルでの鉄鉱石事業。

中長期の需要伸長に応えるべく、優良資産に基づいた生産量拡大と競争力強化をさらに進め、世界市場への安定供給に貢献します (P.48参照)。



LNG

原油や天然ガスの埋蔵量、生産量、コスト競争力の三位一体の強化の一環として、多様性のあるLNGポートフォリオと物流機能の増強をグローバルに展開。

エネルギー資源の安定供給や世界のさまざまな需要家のニーズに応えられる体制の構築を進めています。

Innovation on the move



IoT

産業向けIoTデータ管理ソフトウェアのグローバル・リーディングカンパニー OSIsoft社に新たに出資参画。

同社開発のPI Systemはフォーチュン・グローバル500の企業の65%、世界125ヵ国ですでに利用されており、当社グループの事業のオペレーション最適化や新たな事業モデルの構築に活用します (P.61参照)。

高速携帯通信

サブサハラアフリカで第4世代通信規格であるLTE方式による高速携帯通信事業者Afrimax社に出資参画。

提携先Vodafone社のブランドで、現在7%にとどまる同地域のインターネット普及率の向上に貢献します。



新薬開発ファンド

大手投資会社や製薬受託大手 Quintiles社らと共同で新薬開発ファンドNovaQuestを拡大組成。

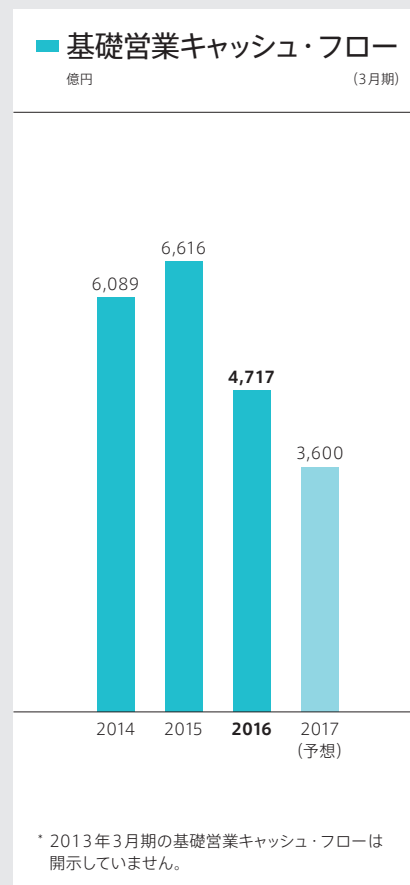
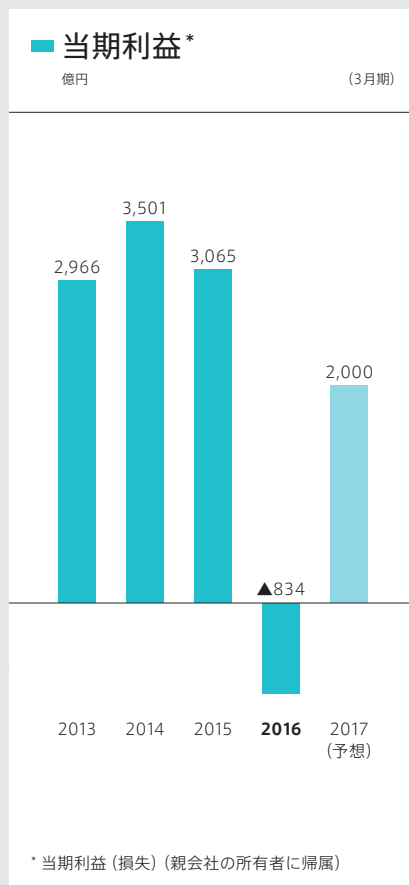
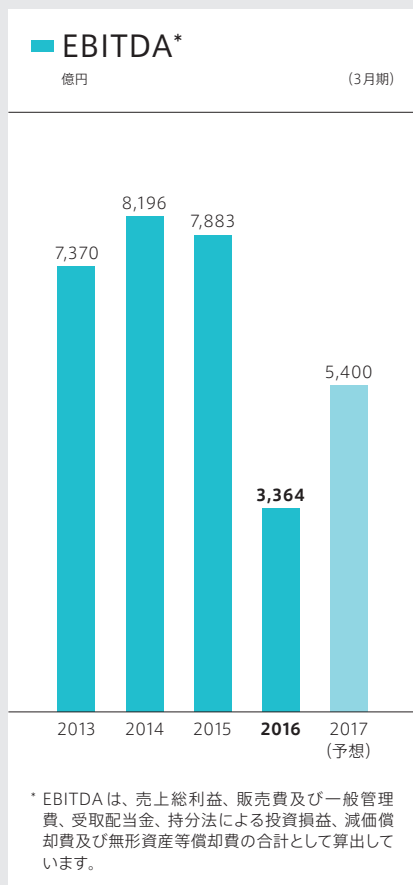
ますますコストの膨らむ新薬開発のソリューションとしてさらに活用されるべく取り組みます。

炭素繊維製軽量タンク製造

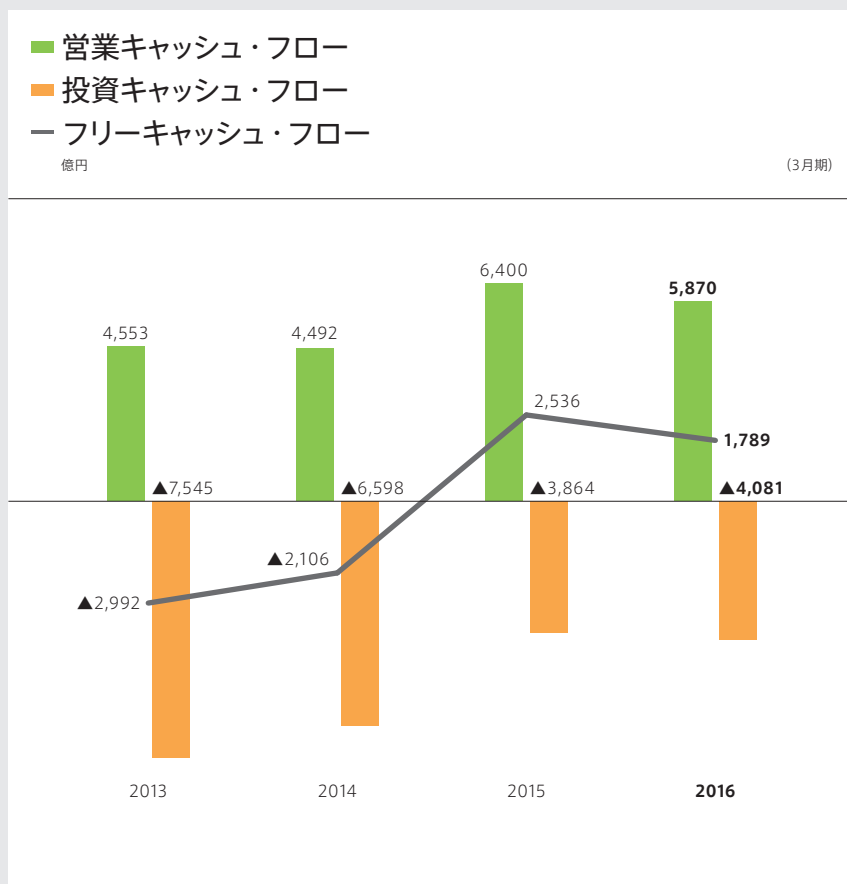
炭素繊維を使用したコンポジットタンクメーカーHexagon Composites社に出資参画。

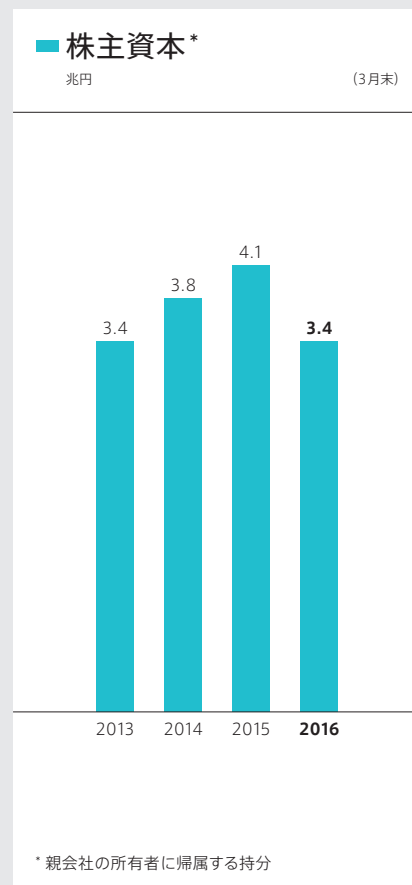
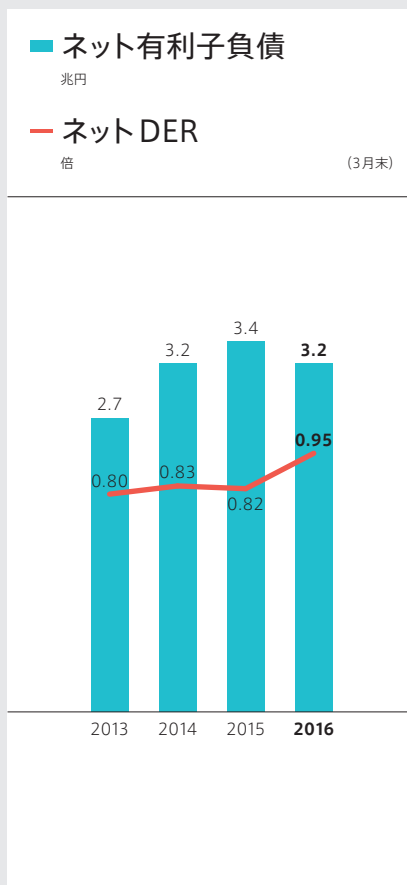
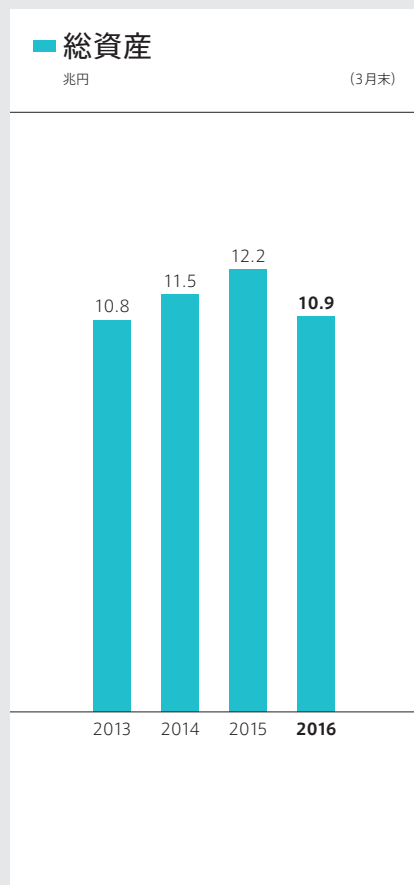
グローバル市場での同社事業の拡大により、軽量化素材を活用した輸送分野における温室効果ガス排出削減に貢献します (P.55参照)。



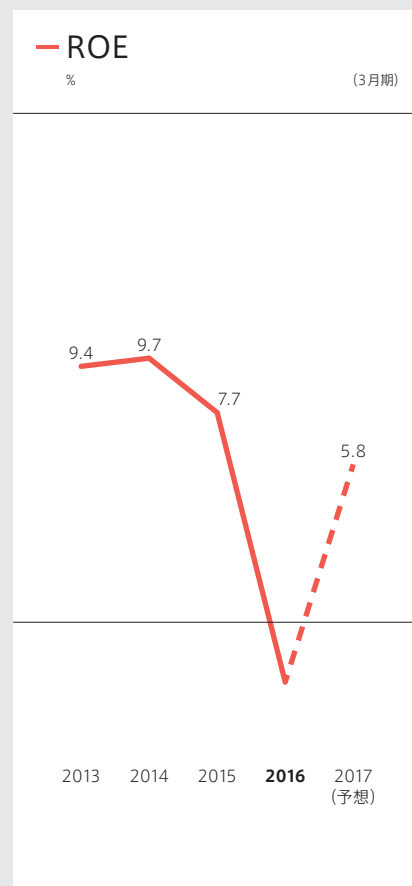
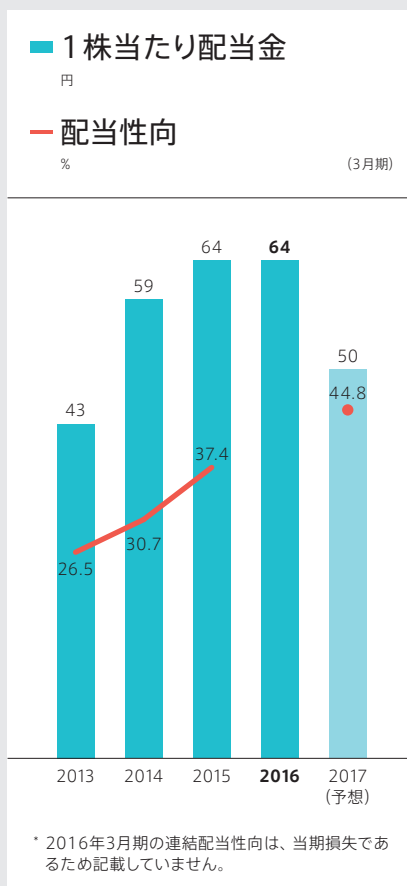
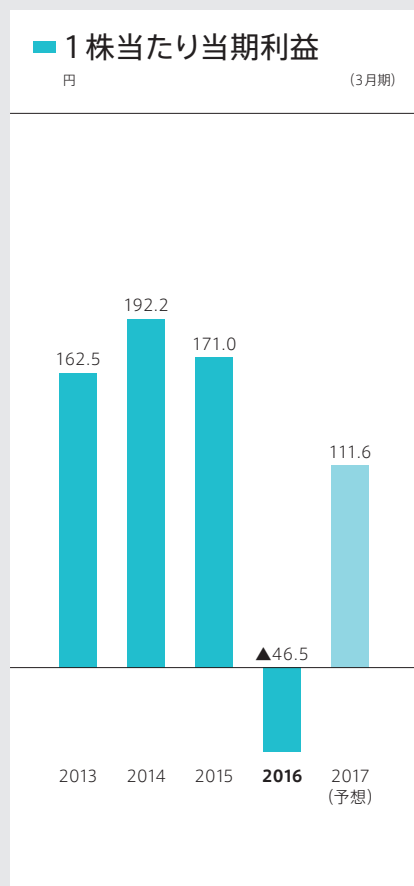


Financial





Highlights (IFRS 基準)



CONTENTS

08 ▶▶ 社長メッセージ



14 ▶▶ 中期経営計画の進捗

- 14 中期経営計画 Challenge & Innovation for 2020～三井物産プレミアムの実現～
- 15 CFOメッセージ
- 18 現中期経営計画に沿った2016年3月期の成果
- 20 事業投資のライフサイクル・マネジメントと規律あるポートフォリオ経営の実践

22 ▶▶ 三井物産の価値創造

- 22 時代のニーズに応え、進化し続ける三井物産
- 24 三井物産の価値創造
- 26 三井物産の価値創造プロセス
- 32 「攻め筋」における戦略的事業展開
- 34 Key Strategic Domain: Mobility
攻め筋「モビリティ」における、
三井物産ならではの価値創造



44 ▶▶ 営業概況

- 44 オペレーティングセグメント別データ一覧
- 46 鉄鋼製品セグメント
- 48 金属資源セグメント
- 50 機械・インフラセグメント
- 54 化学品セグメント
- 56 エネルギーセグメント
- 58 生活産業セグメント
- 60 次世代・機能推進セグメント
- 63 米州セグメント
- 64 欧州・中東・アフリカセグメント
- 65 アジア・大洋州セグメント



66 ▶ コーポレート・ガバナンス

- 66 取締役および独立役員
- 68 監査役および独立役員
- 69 執行役員
- 70 特別対談：
三井物産らしいコーポレート・ガバナンスの在り方
- 74 コーポレート・ガバナンスの状況
- 82 内部統制
- 85 組織図



86 ▶ 事業活動とマテリアリティ

- 86 「攻め筋」ごとの重要課題と取り組み
- 90 重要課題に対する主な取り組み事例
- 92 10年データ
- 94 会社情報・投資家情報

ステークホルダーの皆さまへ

社会の一員としてともに発展・成長し、夢溢れる未来に向けて価値を創造していく当社の理念は、厳しい経営環境の下でも見失ってはならない羅針盤です。足下の課題への対処や、これまでの施策の果実化、そして将来に向けた果敢な挑戦について、統合レポートとして財務・非財務の両面から紹介・解説しています。すべてのステークホルダーの皆さまには、本レポートを通じて、三井物産の絶え間ない価値創造へのコミットメントを感じ取っていただければ幸いです。

当社の財務状況に関する詳しい情報については有価証券報告書を、より詳しいESG情報についてはCSRレポート2016を、そのほかの詳しい情報に関しては関連する当社刊行物を、当社ウェブサイトよりご覧ください。

IR 部長

将来情報に関する留意事項

本アニュアルレポートにて開示されているデータや将来予測は、本資料の発表日現在の判断や入手している情報に基づくもので、種々の要因により変化することがあり、これらの目標や予想の達成、および将来の業績を保証するものではありません。また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報および資料の利用は、ほかの方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行っていただきますようお願いいたします。本資料を利用した結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。